

映像の項目・内容	指導・支援の内容、ポイント
<p>1 将来仕事を選ぶとき 考える優先順位は？</p> <p>◆高校生の優先順位</p> <p>◆先輩たちの優先順位</p> <p>◆やりがい</p> <p>◆職場環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 映像に出てくる選択肢の優先順位を考える前に、生徒に「仕事（職業）」に対してどういったイメージを持っているかを問いかけてみたい。職業は生活をしていくための収入を得る手段だけでなく、職業を通じて人間関係を構築したり、社会的な役割を果たしたり、評価を受ける場となることなど様々な側面があることを押さえておきたい。 ◇ 映像に出てくる高校生たちの優先順位に関する意見と、自身の考える優先順位とその理由を比較することで、仕事（職業）に関する価値観が多様であることを知ることが可能である。 ◇ 該当インタビューに出てくる今回取材した大人は、職業選択の判断理由はすべて「やりがい」であったが、指導する先生方がなぜ教職を選んだかを話したり、保護者などに聞いてみたりする機会を設けてもよい。実際にアルバイトなどで働いた経験のある生徒もいるかもしれないが、全員が具体的な職業選択のイメージを持つことは難しい。現在の自分の性格・適性などを考えさせて、つきたい職業を考える活動につなげたい。 ◇ 「テレワーク」とは「tele（離れた場所）」と「work（働く）」をあわせた造語である。近年の情報通信技術の発達に伴い、必ずしも勤務先で働くケースだけではなく、自宅にいて仕事をする「在宅勤務」や移動中や顧客先などでパソコン等をつかっての「モバイルワーク」、勤務先ではないスペースで働く「サテライトオフィス勤務」などが可能になった。ケガなどにより一時的に通勤が困難な場合への活用以外にも、「ワーク・ライフ・バランス」という視点からも着目されている。
映像の項目・内容	指導・支援の内容、ポイント
<p>2 いろいろな働き方があるけれど 企業で働くとしたら？</p> <p>◆高校生の雇用形態に対するイメージ</p> <p>◆正規雇用と非正規雇用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 映像を視聴する前に、「職業労働」について押さえておきたい。「職業労働」には、会社や団体などに雇われて働く「雇用者」、企業などに雇われて働くのではなく自ら事業を行う「自営業者」、さらにフリーライターやブロガー、投資家、作家、YouTuber といった「自由業者」と呼ばれるものがある。雇用形態は近年大きく変化しており、情報通信技術の発達からも「自営業者」や「自由業者」を選択したい生徒も増えてきているとは思われるが、この項目ではあくまで「雇用者」としての労働に焦点化して考える。 ◇ 「雇用者」には正規雇用と非正規雇用がある。非正規雇用には、正社員よりも勤務時間が短く時給制のケースが多いパートタイマーやアルバイト、派遣会社と雇用契約をして派遣先の企業の規定に合わせて働く派遣社員、あらかじめ雇用期間が決まって更新しなければ自動的に労働契約が終了する契約社員などと呼ばれる形態がある。パートタイマーの語源は英語から、アルバイトの語源はドイツ語からきているが、両者に明確な定義があるわけではない。 ◇ 正規雇用は非正規雇用に比べてよい待遇であり、福利厚生で受けられるサービスにも大きな差があることは事実だが、同じ職場で同じ仕事をする正規雇用の労働者と非正規雇用の労働者との賃金格差や待遇を見直そうという動きが出ている。これは「同一労働同一賃金」というもので、罰則規定は無いものの「パートタイム・有期雇用労働法」として2020年4月（中小企業は2021年4月）から施行される。総務省「労働力調査」（2019年2月15日発表）によると、2018年の非正規雇用の労働者は2120万人と発表され、年々増加傾向にある。「定年退職するまで正規雇用で安定した職場で」といった終身雇用の考え方が変化し、様々な働き方の選択肢が出てきている中「正社員がいい」と考えている生徒でも、必ずしも正規雇用で働くことができるとは限らなくなっていることは押さえておきたい。 ◇ 映像中では企業で雇用者として働くことに限定した設定をしたが、自営業者、自由業者といった働き方も含め、自分の将来に希望する生活を考えさせるまともにしてよい。
映像の項目・内容	指導・支援の内容、ポイント
<p>3 これは自分の仕事？ パートナーの仕事？</p> <p>◆家事に対する高校生の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「いろいろな働き方があるけれど企業で働くとしたら？」では、収入を得るための仕事である「有償労働」を取り上げたが、本項目では収入を伴わない労働である「無償労働（アンペイドワーク）」について考える契機にしたい。無償労働には、家事や介護・看護、育児、ボランティアや地域の活動など様々なものが含まれるが、今回はパートナーと暮らすときの「家事」について考えてみたい。 ◇ 映像中の「料理」「洗い物」「洗濯」「掃除」「ゴミ出し」「子どもの送り迎え」のマグネットとボードなどを作らなくとも、黒板と選択肢を書いた紙を磁石で押さえる形で発表させたり、各自のワークシートに自分の考えを記入させたりすることで、自分がどのような意識や価値観を持っているかが視覚化でき、映像中の高校生たちの意見への共感もより出てくるため、積極的な活動を促したい。

<p>◆実際の共働きの家庭での家事 (加藤さんの例)</p> <p>◆実際の共働きの家庭での家事 (堀込さんの例)</p>	<p>◇ここで取り上げた家事以外にも、地域での活動などは、生活していく上ではなくてはならない仕事ではあるが、収入を伴うものではないこともあり相対的に低い評価しか与えられてこなかった。また「家事は女性の仕事」といった価値観が強かったのも事実だが、これからはパートナーと協力してともに担うことが求められている。</p> <p>○キーワードとして、「男女共同参画社会」(男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会(男女共同参画社会基本法第2条より))を取り上げるのもよい。</p>
映像の項目・内容	指導・支援の内容、ポイント
<p>4 自立って何?</p> <p>◆「自立」に対する高校生のイメージ</p> <p>◆生活的自立</p> <p>◆経済的自立</p> <p>◆精神的自立</p> <p>◆社会的自立</p> <p>◆性的自立</p>	<p>◇映像を見る前に「大人」とはどういう人のことか、また「自立」とはどういうことなのかを考えさせ、ワークシートやノートにできるだけたくさん書かせた上で映像を視聴させたい。</p> <p>◇生徒が一番イメージしやすく意見が出やすいのは「生活的自立」「経済的自立」だと思われる。「生活的自立」は毎日の生活を自分で管理し身のまわりのことを自分でできるようになることである。また「経済的自立」は、働いて収入を得ることができ、その収入を計画的に使うことができることである。「精神的自立」「社会的自立」「性的自立」という側面はなかなか意見が出てこないかもしれない。「精神的自立」は自分の考えを持ち自分で決定して行動ができること、「社会的自立」は自分とは異なる考え方を尊重し良好な人間関係を作ることができること、「性的自立」とは自分と相手の性について正しく理解・尊重し、性に関して責任ある行動が取れるようになることである。</p> <p>◇「性的自立」に関連して、近年、性的少数者を表す言葉のひとつとして「LGBT」という言葉が一般的に認知されるようになってきている。性的指向(Lesbian, Gay, Bisexual)および性自認(Transgender)の頭文字を取った言葉であり、性は多様であり、個人の尊厳に関する大切な問題であることには触れておきたい。また、もう一つのキーワードとして「性と生殖に関する権利」について紹介してもよい。これは1994年の国際人口開発会議で確認された概念で、性や出産など自分の身体に関することを自分で決められる権利のことで「(セクシャル・)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」のことである。第二次性徴後、青年期は性について不安に感じたり悩んだりすることが多いとされていることから「性的自立」の重要性は再確認したい。</p> <p>◇教科書や資料集では主に5つの「自立」を挙げてはいるが、これ以外にも生徒同士の意見交換を踏まえて「自分にとっての自立」についてまとめてみるのもよい。</p>
映像の項目・内容	指導・支援の内容、ポイント
<p>5 家事の代行、利用する?しない?</p> <p>◆「家事代行を利用したいか」 についての高校生の意見</p> <p>◆利用が増加傾向にある 家事代行サービス</p> <p>◆家事代行サービスを利用してみたら (金子さんの例)</p> <p>◆現代の家事と課題</p>	<p>◇家事代行サービスは、日常的な掃除や洗濯、料理など家庭の家事を手伝ってくれるサービスで料金は時間単価 × 時間の会社ほとんどである。核家族化や共働き家庭の増加、また高齢化に伴い家事代行サービスの利用が増加している点をまず押さえておきたい。</p> <p>◇今回、「掃除」を例に家事代行の例を紹介したが、家事代行サービスでの「掃除」と「ハウスクリーニング」は混同されがちであるため少し触れておいてもよい。家事代行での「掃除」は、依頼者の家にある掃除道具や洗剤を用いて作業をするが、ハウスクリーニングはエアコンや換気扇を分解しての清掃や、風呂場など限られた場所を専用の洗剤や機材を用いて清掃する専門的なサービスで、後者の方は日常的なケアでは落とすことのできない汚れを落とすことを目的としている。その他、料理や洗濯なども、基本的に依頼者の家にある調理器具や機材・洗剤などを用いて行うのが「家事代行サービス」である。また「家政婦」とも混同されがちであるが、家政婦は依頼者と直接雇用契約を結ぶ形になるが、家事代行サービスでやって来る担当者は家事代行サービスの会社との雇用契約を結んでいるところが相違点である。</p> <p>◇家事代行サービスは様々な家事を代行してくれるサービスではあるが、トラブルが全くないわけではない。例えば料金体系(最低依頼時間やキャンセルの費用など)、作業内容(依頼内容を時間内でこなせないなど)、破損(家具などを一部傷つけてしまうなど)が例として挙げられる。トラブルを未然に防ぐために、ただ頼むだけではなく、契約前に内容や料金体系を確認し、契約書面や規約をきちんと読んでおくことの必要性にも触れておきたい。</p> <p>◇家事代行サービスは、本来家事が家庭内の仕事であったものを、対価を払ってアウトソーシングすることによって、時間やゆとりを得る機能といっても良い。その上でインターネットなどで様々な家事代行サービスの会社の情報を調べ「こういった家事代行サービスであれば使ってみよう」というものを考えさせる活動につなげてよい。</p>